

令和5年度 学校法人國學院大學栃木学園事業報告書

1 法人の概要

(1) 学校法人の沿革

昭和35年 4月	学校法人國學院大學（事務所 東京都渋谷区）は、栃木県知事の認可を得て國學院大學栃木高等学校（全日制普通科 入学定員160人）を創設
昭和38年 3月	学校法人國學院大學栃木学園を設立し、高等学校の経営を学校法人國學院大學から継承
昭和39年 3月	高等学校に全日制商業科（入学定員40人）を設置、普通科の入学定員を240人に変更
昭和40年 3月	國學院大學栃木二杉幼稚園（総定員200人）を設置
昭和41年 1月	國學院大學栃木短期大学（入学定員 国文科50人・家政科50人）を設置
昭和43年 2月	短期大学に初等教育科（入学定員50人）を設置
昭和50年 3月	高等学校の普通科入学定員を500人・商業科入学定員を150人に変更
昭和50年12月	短期大学の国文科入学定員を100人・初等教育科入学定員を100人に変更
昭和58年 1月	短期大学の国文科入学定員を150人・家政科入学定員を100人・初等教育科入学定員を150人に変更
昭和60年12月	短期大学に日本史学科（入学定員100人）を設置し、これを機に既設の科の名称を国文学科・家政学科・初等教育学科に変更
平成 元年 3月	高等学校の普通科入学定員を650人に変更
平成 元年12月	短期大学に商学科（入学定員150人）を設置、また初等教育学科入学定員を100人変更
平成 3年 6月	高等学校の商業科を国際情報科に科名変更
平成 7年11月	國學院大學栃木中学校（入学定員80人）を設置
平成13年 2月	幼稚園の収容定員200人を210人に変更
平成13年 7月	高等学校の収容定員を普通科1,800人、国際情報科480人に変更
平成13年12月	短期大学の収容定員を国文学科200人、商学科を200人に変更
平成20年12月	短期大学の商学科入学定員を60人に変更
平成21年12月	短期大学の国文学科入学定員を80人・家政学科入学定員を70人・初等教育学科入学定員を80人・日本史学科入学定員を70人に変更
平成23年 6月	短期大学既設の国文学科・家政学科・日本史学科・初等教育学科・商学科を募集停止し、日本文化学科（定員200人）・人間教育学科（定員160人）を設置
平成24年 8月	高等学校国際情報科を募集停止し、普通科にグローバルコース(80名)を設置することにより、普通科収容定員を2,040人に変更
平成25年11月	短期大学の日本文化学科の入学定員を160人・人間教育学科の入学定員を140人に変更
平成27年 5月	高等学校の国際情報科を廃止
平成27年11月	短期大学の日本文化学科の入学定員を120人・人間教育学科の入学定員を130人に変更
平成29年 3月	幼稚園を幼稚園型認定こども園に変更
令和 元年12月	短期大学の日本文化学科の入学定員を150人・人間教育学科の入学定員を100人に変更

(2) 設置する学校等

國學院大學栃木短期大学 日本文化学科 人間教育学科
 國學院大學栃木高等学校 普通科
 國學院大學栃木中学校
 認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園

(3) 当該学校・学科等の入学定員、学生数の状況

学校名	学科名	収容定員	入学定員	1 年	2 年	3 年	合計
國學院大學 栃木短期大学	日本文化学科	300	150	101	130	—	231
	人間教育学科	200	100	56	54	—	110
	計	500	250	157	184		341
國學院大學 栃木高等学校	学科名	収容定員	入学定員	1 年	2 年	3 年	合計
	普通科	2,040	680	395	395	421	1,211
國學院大學 栃木中学校	学科名	収容定員	入学定員	1 年	2 年	3 年	合計
	—	240	80	55	55	56	166
國學院大學 栃木二杉幼稚園	認可定員	利用定員	3 歳未満	3 歳	4 歳	5 歳	合計
	229	140	19	31	34	34	118
合 計		2,920	1,150	638	668	515	1836

(4) 役教職員の概要

① 法人役員の概要

役員名	定 員	現 員	備 考
理 事	11 人～14 人	11 人	理事長含む
監 事	2 人	2 人	
評議員	34 人～42 人	36 人	

役職名	氏 名	寄附行為等の選任区分
理 事	川福 基之	國學院大學理事長又は同人の推薦する者
	後藤 正人	國學院大學栃木短期大学学長
	實島 範朗	法人の設置する学校の長（短大学長を除く）
	中山 年江	〃
	中島 克訓	栃木市議会議長
	佐野 正行	神社関係者
	大塚 伸一	評議員の互選
	石原 敬士	法人の功労者
	吉田 健彦	〃
	大川 吉弘	学識経験者
	太田 映子	〃
監 事	後藤 利夫	
	小藤 清	

評議員	小林 一成	石坂 昌圀	石塚 透	赤塚 徹
	天谷 浩明	谷口 利夫	大塚 伸一	中川 雅之
	長谷川 孝	前橋 陽子	中麿 輝美	土田 十
	和賀 良紀	丸山千賀子	鷹箸 勝美	寺崎 宣昭
	塚越 義幸	黒川 正邦	青木千津子	阿部 慥
	大山 尚	増山 昌章	小藤 清	高森 良友
	山内 見和	川福 基之	後藤 正人	實島 範朗
	中山 年江	中島 克訓	佐野 正行	石原 敬士
	吉田 健彦	大川 吉弘	太田 映子	大島 澄子

学校法人向け役員賠償責任保険契約の状況

保険名称：日本私立短期大学協会 学校法人向け会社役員賠償責任保険

保険期間：契約期間：令和5年7月1日～令和6年7月1日

被保険者：本学園理事・監事・評議員

補填内容：損害賠償金・訴訟費用他特約 支払限度額 総額3億円

保 険 料：360,000円

引き受け保険会社：三井住友海上火災保険(株)

代理店：MSK保険センター(株)

② 教職員の概要

國學院大學栃木短期大学

教 員	職 名	人 数	備 考
	学 長	1	
	副 学 長	0	
	教 授	21	
	准 教 授	12	
	専任講師	5	
	助 手	7	
	非常勤講師	51	
	計	97	
職 員	職 名	人 数	備 考
	事 務 長	1	
	事務次長	1	
	課 長	1	
	課長補佐	1	
	書 記	8	
	コンピュータ士	1	
	司 書	3	
	学 芸 員	1	
	技 術 員	1	
	嘱 託	3	
	計	21	
学 校 計		118	

國學院大學栃木高等学校

教 員	職 名	人 数	備 考
	校 長	1	
	教 頭	1	
	教 諭	6 0	
	専任講師	0	
	常勤講師	1 0	
	非常勤講師	1 9	
	計	9 1	
職 員	職 名	人 数	備 考
	事務局長	1	
	課 長	2	
	主 任	1	
	書 記	1 6	
	技 術 員	7	
	嘱 託	1 2	
	計	3 9	
学 校 計		1 3 0	

國學院大學栃木中学校

教 員	職 名	人 数	備 考
	校長(兼)	(1)	
	教 頭	1	
	教 諭	1 1	
	常勤講師	3	
	非常勤講師	4	
	計	1 9	
職 員	職 名	人 数	備 考
	書 記	2	
	嘱 託	1	
	計	3	
学 校 計		2 2	

認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園

教 員	職 名	人 数	備 考
	園 長	1	
	主幹教諭	1	
	保育教諭	9	
	非常勤講師	1 2	
	計	2 3	
職 員	職 名	人 数	備 考
	書 記	1	
	技 術 員	2	
	計	3	
学 校 計		2 6	

設置する学校全体の教職員数（非常勤教員を含む）

職 名	人 数	備 考
教 員	2 3 0	
職 員	6 6	
合 計	2 9 6	

※ 以上 （３）（４）表の人数は令和６年３月３１日現在

2 事業の概要

I. 教育事業の概要

本学園の建学の精神すなわち國學院大學の建学の精神に基づく教育活動を設置する学校において顕現発揚し、日本国に貢献できる有為の人材を育成する目的を達成すべく、以下の事業を実施した。

1. 短期大学

短期大学は、令和5年度、学長のリーダーシップのもとで、本学の高等教育機関としての使命の遂行と健全な教育運営をはかるため、教育の方針（学位授与、教育課程、入学者受入）を再確認し、教育の目的（建学の精神に則った教育、学科が育む人間像）を明確にした。一層の地域貢献と学修効果を支援するため行政・大学・博物館との協力関係を推進した。

特に、令和5年度も新型コロナウイルス感染症を含め、その他の感染症対応に万全をきした体制での運営に尽力した。授業は対面授業を中心に授業を実施し修了した。学生の課外活動も通常通り実施され、行事はすべて計画通り実施した。年度終了を迎える時期に感染症が増加傾向にあったが、無事第57回卒業証書・学位記授与式を行った。

(1) 各学科の教育

日本文化学科

3フィールド（日本文学・言語文化・日本史）が設けられている。学生は、志願時にフィールドを選択して受験をし入学する。学科共通の基礎教育・キャリア教育と各人が選択した分野の学習とで知識・技能を修得し、建学の精神を基盤とした人格形成教育を通して、広い視野をもって社会に貢献できる教養豊かな人材を育成することを目的としている。第57期卒業者の資格取得は、教員免許状（中学国語・社会）16名、図書館司書22名、学校司書13名、学芸員13名、情報処理士など実務系資格は延べ9名であった。國學院大學（文学部・経済学部）、他大学等へ45名が編入学した。大学編入学者は日本文化学科卒業生の46.9%に当たる。

人間教育学科

子ども教育（幼稚園・保育専攻、小学校・幼稚園専攻）フィールドと生活健康フィールドが設けられている。志願の状況は幼稚園・保育専攻が主体であるのが現状である。本学科では、地域社会と連携した実践的指導を通して、要望に応える幼稚園教諭・保育士養成に尽力すると同時に、小学校教諭・養護教諭・家庭科教諭養成と採用試験対策・支援に力を注いでいる。第57期卒業者の資格取得は、小学校教員免許状9名、幼稚園教員免許状34名、保育士資格23名、養護教諭免許状13名、中学家庭科教諭2名、医療管理秘書士9名、医療情報事務士9名、フードスペシャリスト1名、保健児童ソーシャルワーカー9名であった。國學院大學人間開発学部初等教育学科、他大学へ7名が編入学した。

(2) 教学の指針

- ①高等教育では、建学の精神を基にした、私学の独自性を特化した教育での学修の成果が求められている。本学は、建学の精神とその精神の根源に立ち返り掲げた「四つの約束」をもとに、主体性を成長させていく教育に努力している。その実践は、1年次学科必修科目「日本文化学科概説」・「人間教育学科概説」（学長・学科長・フィールド代表・事務局代表によるオムニバス授業）を軸に、具体的に行っている。

- ②第三期間の「第三者評価」で、認証機関（短期大学基準協会）により適格認定が与えられた。
第四期認証評価を6年後に受ける計画で、毎年度作成の自己点検・評価報告書の作成をA L Oをリーダーとして進行させている。
- ③令和5年度、1学年定員（250名）充足率は58.8%（令和4年度64.8%）であった。中期計画学生募集充足率目標値には達しなかった。日本文化学科の充足率が70.0%（令和4年度69.3%）、対する人間教育学科の充足率は42.0%（令和4年度58.0%）である。学科単位の充足率は安定が見られない。将来に向けての構想検討を推進する。
- ④文部科学省が推進する高大連携教育の趣旨を踏まえた教育に取り組んだ。入学前事前教育、入学時の基礎学力診断調査に取り組んでいる。学長の提示のもと教務委員会が中心となり、入学者の基礎学力診断を実施して、実態を把握し、その結果に基づいて対策・支援を企画している。
- ⑤学生募集については、学長直属委員会として「改革推進委員会」を設け、新しい魅力ある科目（いちご学、ぶどう学、心と美術）の設定、教育環境（机・椅子）の整備をすすめている。「募集促進委員会」では、教職員が一体となって、学校訪問の拡充、高校との連携強化に努め入学率の向上に努力している。また、入試制度の「國學院大學受験者対象入試」に力を入れ、國學院大學入学課の協力も得て入学者確保に励んでいる。

（3）短期大学の運営について

策定した短期大学中期計画に基づいて、健全な経営、教育効果の向上、施設設備整備に努めている。近年の2学科への志願者・入学者傾向から、現実を直視した学科定員の改革・改善を行いながら運営を行うこととする。

（4）合理的配慮について

合理的配慮の法的義務化に伴い、全ての学生が、公平で充実した大学生活をおくるため、障がいや疾患等をもっている学生に対して、合理的配慮申請書を踏まえた学生支援体制の構築を推進している。今後、ガイドラインの作成、教育内容・方法の見直しを行い、次年度には「学修支援室」を立ち上げる。

（5）中期計画の進捗状況

令和5年度の中期計画進捗状況は以下の通りである。

校舎・施設・整備計画については計画通りに進行している。専任教員構成については、たてている高年齢化の是正をすすめ、日本文化学科においては令和5年度末において平均年齢を1.7才是正できた。学生募集については、日本文化学科においては平成29年度～令和2年度は目標値以上であったが、人間教育学科においては令和3年度～令和5年度は達成には至らなかった。

令和5年度に改革推進委員会を新設した。学生数の確保はもとより、カリキュラムのスリム化、ICT環境を含む施設・設備の充実、リニューアルしたWebサイトの見直しやロゴの作成を行い、受験生の目線とニーズにあった広報活動を推進し、入学者数激減という事態を踏まえ、これまでの特性を保持したうえで存続と再生に向けて教育の質向上を目指す。

2. 高等学校

(1) 教育目標

國學院大學の建学の精神に則り、人格の陶冶に重きを置いて、理性と情操豊かな視野の広い人間形成を教育目標としている。そして、「たくましく 直く 明るく さわやかに」の校訓のもと、「鍛える教育」を掲げ、社会や家庭、学校などのルールをしっかりと守り、他人への思いやり、気遣い、心配り等、「人としての力」を養うことを目標とする。

「本気で青春」「生徒一人ひとりが輝いてほしい」「その場所が国柄（ココ）にある」のコンセプトで教育活動を行っている。

○コース制

1) 中高一貫コース

6カ年の一貫した教育で、最難関大学をはじめ、各自の目標とする大学を目指す。中学時より十分な学習時間を確保し、3年次には徹底した大学入試の対策を行う。また、中学・高校の6年間を通して、国語・数学・英語では習熟度別授業を展開し、成績上位者は高校1年次の2学期から国語・数学・英語において、特別選抜Sコースとの合併授業を行う。

進学目標 最難関国公立大学 医歯薬学部

2) 特別選抜Sコース

少人数制の高度なプログラムで、東大・京大・医学部・早稲田大学・慶応大を目指す。少人数制によるきめ細やかな指導を行っている。1年次の2学期からは国語・数学・英語において中高一貫コースの上位者との合併授業を行い、さらに高いレベルの学力を目指すため、実戦的な力を早い時期から身につけるように演習時間を多く取り入れた授業を実施している。

進学目標 最難関国公立大学 医歯薬学部

3) 特別選抜コース

充実した学力向上プログラムで難関国公立大学を目指す。5教科7科目の3年間を見通した学習計画に沿って効率よく学習を進め、3年次には入試に向けた演習を多く取り入れることによって実戦的な力をつけていく。また、国語・数学・英語・理科では習熟度別授業を行い、長期休暇中や早朝の課外授業において特別講座を実施している。

進学目標 難関国公立大学

4) 選抜コース

G-MARCHレベルの難関・上位私立大学を目指す。2年次からは理系、文系に分かれ私立大学入試に対応する。3年次には入試に向けた演習を多く取り入れることによって実践的な力をつけていく。

進学目標 G-MARCHレベルの私立大学

5) 文理コース

國學院大學や有名私立大学を目指す。1年次は全員同じカリキュラムで学びますが、2年次から理系、文系に分かれる。國學院大學をはじめ推薦制度が充実しており、学校行事や部活動に全力投球する生徒が多く在籍している。

進学目標 國學院大學や有名私立大学

(2) 学力の向上

1. KTベクトルプロジェクト

K（國學院）から T（東大）へをコンセプトとした、上位者指導のプロジェクト。なぜ東大を目指すのか。第一に、「東大を目指すからには」と普段から意欲的に学習に取り組む強いモチベーションが生まれ、第二に、目指すことでより高い学習効果が得られる。東大の入試問題を攻略するためには、「基礎基本の高い完成度」と「持っている知識を組み合わせる力」が必要である。

2. 土曜日授業

第1・3・5土曜日は授業を実施。日頃の学習で得た知識を確実に定着させ、学力向上を図る。

3. 放課後の講習

日々の授業のフォローアップや生徒の要望による模試に向けた対策講座などを実施。

4. 長期休暇講習

夏休みに前期・後期講習、冬休み・春休みの講習で、大学入試問題の演習や平常の授業の補足を行なうなど、生徒の学力に応じた学習指導を実施。

5. サマースクール

夏休みには3泊4日の校外合宿を実施し、規則正しい生活の中で毎日90分授業を5コマ行うなど徹底的に鍛えていく。

6. スタディサプリ

既習事項の抜け漏れをチェックしたり、応用問題に取り組むなど個々の進捗や習熟度に合わせて活用している。各自が使用するタブレット内のアプリを使って学習する。

7. 英検・漢検・数検

（3）学校行事

○校内競技大会 全学年対象

令和5年5月24日（水）・25日（木）

1年生男子 サッカー（第1グラウンド・ラグビー場）

1年生女子 バスケットボール（四十周年記念館）

2年生男子 バレーボール（体育館第2アリーナ）

2年生女子 ハンドボール（ハンドボールコート）

3年生男子 ソフトボール（野球場）

3年生女子 バレーボール（体育館第1アリーナ）

○芸術鑑賞 2年生対象

令和5年6月8日（木） 日本四季劇場「ノートルダムの鐘」

○サマースクール 全学年NSTAコース、Bコース（希望者）対象

令和5年8月1日（火）～4日（金）3泊4日

福島県郡山市 ふくしま磐梯熱海温泉ホテル華の湯

○日本テレビ 24時間テレビ 出演

令和5年8月27日（日）

「高校生422名 1人100m走ってつなぐ42.195km

目指せ男子フルマラソン世界記録」

結果 1時間51分12秒 目標記録達成

○come on in 国学院

令和5年7月22日(土) 第1回

令和5年7月29日(土) 第2回

○生徒会研修

令和5年8月9日(水)

4年ぶりに行われる国学院祭(文化祭・体育祭)成功に向けての話し合い

○第15回アメリカ語学研修 希望者対象

令和5年8月9日(水)～24日(木) アイオワ州

○国学院祭(文化祭) 高校テーマ「一陽来復」～本気で耀く場所が国柄(ココ)にある～

令和5年9月10日(日)・11日(月)実施 来場者約3,000人 中学テーマ「青瞬」

○国学院祭(体育祭)

令和5年10月3日(火)実施

○キャリア講演会 1年生対象

令和5年11月8日(水) 四十周年記念館

【内容】 住友商事社員を講師に招き、講演と座談会をおこなう

【講師】 松原幸平氏(住友商事 IT 企画推進部)

青木壮平氏(住友商事食糧事業第1部)

向井誠司氏(住友商事グローバルメタルズ)

○全校マラソン大会 全学年対象

令和5年11月9日(木)実施

○創立記念講演会

令和5年12月8日(金) 四十周年記念館

【講師】 小関 竜也 氏(埼玉・西武ライオンズコーチ)

【演題】 「目標達成の為の思考 ターニングポイントを見逃すな」

○韓国語学研修 中高希望者対象(53名)

令和5年12月21日(木)～24日(土)

○百人一首カルタ大会 1年生対象

令和6年1月17日(水) 四十周年記念館

○予選会

令和6年2月29日(木) 四十周年記念館

(4) 進学実績

国公立大学

北海道大学

東北大学

筑波大学

千葉大学

宇都宮大学

茨城大学

帯広畜産大学

弘前大学

秋田大学

山形大学

福島大学

新潟大学

信州大学

静岡大学

大阪教育大学

長崎大学

高崎経済大学

群馬県立女子大学

防衛大学校など

私立大学	明治学院大学	東洋大学	昭和薬科大学
國學院大學	成蹊大学	日本大学	東京電機大学
早稲田大学	成城大学	玉川大学	千葉工業大学
東京理科大学	同志社大学	東京女子大学	東京農業大学
青山学院大学	立命館大学	国際医療福祉大学	大妻女子大学
学習院大学	獨協大学	自治医科大学	共立女子大学
中央大学	芝浦工業大学	獨協医科大学	昭和女子大学
法政大学	武蔵大学	北里大学	文教大学
明治大学	駒澤大学	順天堂大学	帝京大学など
立教大学	専修大学	東京薬科大学	

(5) 部活動の活躍（全国）

<囲碁将棋部>

○全国高校囲碁選手権大会 女子個人準優勝

令和5年7月24日（月）～26日（水）日本棋院東京本院

第47回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会 女子個人戦

黒川智美さん（特別選抜S2年）準優勝

○2023 鹿児島総文囲碁部門 黒川智美（特別選抜S2年） 5位入賞

令和5年7月31日（月）、8月1日（火） 鹿児島県指宿市

○第18回全国高等学校囲碁選抜大会 女子団体3位

令和6年3月19日（火）、20日（水） 大阪商業大学

女子団体戦 黒川智美さん（特別選抜S2年）、秋元瑚々さん（特別選抜S2年）、

阿部姫奈さん（特別選抜S2年） 全国第3位

女子個人戦 黒川智美さん 全国第4位

<書道部>

○第47回全国高等学校総合文化祭かごしま大会 出場

令和5年8月1日（火）～3日（木）鹿児島県薩摩川内市

○第24回高校生国際美術展 国立新美術館

令和5年8月9日（水）～8月20日（日）

佳作（入選） 符 文嘉、町田 瑠那、山口 乃愛

○第32回国際高校生選抜書展

入選 町田瑠那（特別選抜S3年） 原田茉彩（選抜3年） 符文嘉（中高一貫3年）

鹿野史佳（選抜3年） 谷島愛梨（選抜2年）

○第60回全国競書大会（創玄書道会主催）

特別賞 第6席 毎日新聞社賞 谷島愛梨（選抜2年）（受賞率0.43%）

第9席 大会委員長賞 清水紗菜（文理2年）（受賞率1.93%）

以上の他、推薦3名、特選4名、金賞13名

○第60回記念全国学生書道展

文部科学大臣賞（第1席） 谷島愛梨（選抜2年） ※受賞率約0.005%

毎日新聞社賞（第6席） 符文媛（中高一貫1年） ※受賞率約0.5%

学年優秀賞 町田瑠那（特別選抜S3年） 市川美緒（選抜1年） 以上特別賞

創玄書道会奨励賞 7名、特選 11名

<柔道部>

- 令和5年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ） 男子100kg級
全国第3位 片山 涼（文理3年）

<バレー部>

- 第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー）8年ぶりベスト16
1/4(木) 対 近江兄弟社(滋賀) 2対0（勝）
1/5(金) 対 愛媛精華 2対0（勝）
1/6(土) 対 誠英(山口) 0対2（負）

<ラグビー部>

- 第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会ベスト16
12/30(土) 対 長崎南山 71対5（勝）
1/1(月) 対 中部大春日丘 19対24（負）

(6) 募集活動

- 全5回入試説明会（個別相談会）

本校教育、進路の状況、学校生活、入学試験等について説明。個別相談（ご希望の方のみ）では、学校詳細、受験・進路相談、成績についての質疑応答等。

- 一日体験学習『Come on in 国学院』

パソコン部によるオープニング映像、ミュージカル部による公演、書道部によるパフォーマンスが行われた。在校生によるコース紹介や部活動紹介の後、来校者は入試問題解説や各教科の講座、校内見学や部活動見学に参加した。

- 国柄チャレンジ（中学3年生対象）

	志願者数	入学者数
令和6年度	1,390名	283名
5年度	1,605名	374名
4年度	1,653名	413名
3年度	1,649名	431名
2年度	1,567名	441名

3. 中学校

(1) 教育目標

「たくましく 直く 明るく さわやかに」の校訓のもと、生徒は学習や部活動、学校行事に積極的に取り組み、充実した学校生活を送る。

- 1) カリキュラム編成の基本方針
- 2) 学習内容を先取りし、レベルの高い豊富な内容を指導する。
- 3) 4教科（国語・数学・英語・理科）に多くの時間をあてる。
- 4) 3教科（国語・数学・英語）は習熟度別授業を行う。
- 5) 7時間授業で学習し、授業時数を確保する。
- 6) 第1・3・5土曜日に学習会を実施

7) 放課後に課外授業を実施し、理解の徹底を図る。

8) ドイツ・フランス修学旅行（高校1年次）を始め校外学習を実施し、人として総合力を養う。

（2）学力の向上

1. 土曜日授業

第1・3・5土曜日に50分4時限の学習会を実施。日頃の授業で得た知識を確実に定着させ、学力向上を図る。

2. 週確認テスト

英語・数学・国語・理科・社会において、授業で学習した内容の確認テストを行うことで、基礎力の定着を図る。

3. 英会話教室

教育センターにて、外国人講師による習熟度別英会話教室を行い、国際社会に対応できる力を養う。

4. 特別講座

放課後の時間帯に特別講座を行い、応用問題対応力の定着を図る。

（3）学校行事

○自然体験学習

令和5年5月26日（金）実施

1年生 群馬県赤城山地蔵岳

2年生 那須岳の一座である茶臼岳

3年生 奥日光 切込湖・刈込湖

○芸術鑑賞

令和5年6月22日（木）

1年生 東京都美術館でマティス展を鑑賞

国立科学博物館で標本資料を見学

2年生 劇団四季のミュージカル「アナと雪の女王」（日本四季劇場）

3年生 国立能楽堂で能「羽衣」と狂言「伯母に酒」を鑑賞

○一日体験学習

令和5年6月24日（土）実施

○サイエンスセミナー

令和5年7月8日（土）実施

○職場体験

令和5年7月20日（木）・21日（金）

1年生 見学

2・3年生 体験

○サマースクール 全学年対象

令和5年7月24日（月）～27日（木）3泊4日

群馬県みなかみ町 猿ヶ京温泉 源泉湯の宿 千の谷

○オープンスクール・授業参観

令和5年10月7日（土）

○校外学習

令和5年11月

1年生 日光 9日(木)

2年生 広島 9日(木)、10日(金)

3年生 奈良・京都 8日(水)～10日(金)

○全校マラソン大会

令和5年11月16日(木)実施

○ボキャブラリーコンテスト 全学年対象

令和5年12月15日(金)実施

○百人一首カルタ大会 全学年対象

令和6年1月12日(金)実施

○立志式 2年生対象

令和6年1月26日(金)実施

○イングリッシュスピーチコンテスト 1・2年生対象

令和6年2月17日(土)実施

○オーストラリア語学研修 3年生対象

令和6年2月19日(月)～3月1日(金)

(4) 進学実績(令和6年)

国立大学

北見工業大学工学部

東北大学工学部

東北大学理学部

信州大学経法学部

私立大学

國學院大学(4名)

青山学院大学文学部

青山学院大学理工学部

自治医科大学看護学部

芝浦工業大学システム理工学部

帝京大学医療技術学部

東京福祉大学心理学部

法政大学社会学部

酪農学園大学獣医学部

立教大学社会学部など

(5) 部活動の活躍

○書道部

・第63回全国書道展(大東文化大学主催)

【銀賞】押山 理愛(中学3年) 西山 詩菜(中学3年) 小笠原百花(中学2年)

岩上 琴音(中学2年) 齋藤実菜弥(中学2年)

【銅賞】栃木 美空(中学3年) 工藤 洋希(中学2年) 平野あかり(中学1年)

・第24回栃木県学校教育書写書道作品展

【準大賞】岩上 琴音(中学2年)

【金賞】押山 理愛(中学3年) 栃木 美空(中学3年) 西山 詩菜(中学3年)

齋藤実菜弥(中学2年) 平野あかり(中学1年)

○天文部

第8回日本気象学会ジュニアセッション(オンライン)

令和4年5月20日(金) 16:45～

このジュニアセッションは、生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表し意見交換することによって、今後の調査・研究に向けてより考えを深めてもら

うことを目的としている。天文部員の中学2年 野間凱仁、高校一貫コース2年小林亮脩、山根史也の3人が「栃木市太平山県立自然公園における逆転層の研究」というテーマで発表をした。この研究発表には小林と山根が中学生の頃から4年間にわたり気象観測した結果も取り入れられた。

(6) 募集活動

- 入試説明会：本校教育、進路の状況、学校生活、入学試験等について説明。個別相談（希望者のみ）では、学校詳細、受験・進路相談、成績についての質疑応答等。
- 新中3 高校受験説明会・新小6 国栃中説明会
- 1 日体験学習会 令和5年7月8日（土） 図書館大会議室、中学校校舎
国語、算数、社会分野に関する講座と外国人講師による英会話の、そして図工の体験講座が行われ、いずれの講座もほぼ定員を満たした。
- サイエンスセミナー 令和5年7月8日（土） 図書館会議室、特別教育館
 - ・ポンポン船を作ろう
 - ・食品を化学しよう
 - ・野草から紙を作ろう
 - ・岩石から化石を見つけよう

<志願者数・入学者数経年推移>

	志願者数	入学者数
令和6年度	129名	36名
5年度	138名	44名
4年度	154名	55名
3年度	142名	61名
2年度	157名	60名

(7) 安全対策

- 1) 一斉配信メール
一斉配信メールを使い、事務的な連絡事項や緊急連絡などを配信している。
- 2) IDカードチェック
登下校時にIDカードをセキュリティシステムにかざすことによって、直接自宅や保護者のパソコン、スマートフォンなどに登下校の時間が配信される。

4. 幼稚園（幼稚園型認定こども園）

1. 教育の方針

本園は國學院大學栃木学園が設立した幼稚園型こども園であることを踏まえ國學院大學の建学の精神は優れた日本文化を知り、人格を磨き、世界人類文化の発展に寄与できる人間を育てることです。この精神に基づき乳幼児期はしなやかな心と健康な体の発達出来るよう環境を充分考慮して整え、『明るく 素直で 元気よく 積極的に活動する子ども』『何事にも感謝の心を持つことのできる子ども』の育成に努めている。

2. 目標及び内容

この度、改訂された幼稚園教育要領及び保育指針に基づき、生涯にわたる乳幼児の人格形成の基礎を培う重要なものとして位置づけ、一人ひとりの心身の発達をとらえた適切な援助や環境への配慮を心がけ、生きる力となる 自立心・忍耐力・創造性、自ら心を動かして行動する(主体性)等を育むことを重視することに努力している。

3. 保育の資質向上をめざす

A. 保育者としての姿勢

乳幼児期は「模倣時代」とも言われ、感性が育つ時期でもある。保育者は子ども達の『鏡』となり、共に生活していく中で、ひとり一人の発達を理解し、ほんの些細なことも見逃さず、子どもの心をとらえ共感し合い、子どもに寄り添って優しく対応を心がけている。

B. 新教育要領や最近のコロナ禍等での子どもの実態を踏まえ、「幼児期までに育ってほしい姿」を考慮しつつ、令和6年度の教育課程、教育計画等の改善を図った。

C. 保育者一人ひとりがカリキュラムの理念をより意識しながら実践し、県から研修を受けているP(計画)D(実行)C(評価)A(改善)の好循環を生み出すことで保育の資質を十分考慮し質の高い保育に徐々に近づける努力を(各学年チームでの伝達等)し合い、研究保育を実施することができた。

※今年度、1名の新採教諭も加わり、研究保育の成果並びに学年での反省を踏まえ、令和6年度に向けての改善点などを討議しているところである。

4. 子育て支援について

子育て事業を下記のように実施する。

① 子育て相談事業

毎週水曜日 10:30~12:00

未就園児親子教室事業(年間14回の実施 予定通り実施)

(延べ人数90名)音楽と体育の専門家による指導、親子での触れ合いを十分に体験し「親子」から「友達へ」の移行をねらいとして実施した。

② 一時預かり事業

1) 満3歳以上の在園児(幼稚園型)(延べ約1296名)

保育時間前、保育時間後の一時預かり(延べ約180名)

長期休暇期間中の一時預かり(延べ約244名)

地域の在園児以外の利用者(1・2歳児)対象(延べ約16名)

2) 延長保育(2・3号の短時間保育の在園児)

保育時間前、保育時間後の延長保育を実施する(延べ約10名)

5. 安全管理について

ア) 保育と事故防止

安全な保育環境整備

園舎内外の安全な保育(安全点検・整備等)

毎月2回実施し確認して、破損等の場合は、即修理をしている

イ) コロナ対策

行事や日常生活の中で、国、県、市の決まりに沿って実施している。

ウ) 衛生管理・感染症等の応急処置

インフルエンザ・ノロウイルス等、幼児のかかる感染症等を職員間で共通理解（定期的な感染する病気の見分け方や対処法等）に努めた。

エ) 防災・安全管理に備えて

台風、風水害の対応
火災の予防と発生時の対応
地震発生時の対応
不審者への対応

6/16（金）自主訓練の実施 （台風・豪雨・水害を想定しての訓練と対応）
10/27（金）災害避難自主訓練 → 消防車出動中為 通報訓練・避難誘導訓練（地震時と火災の予防と対応）
2/9（金）災害避難自主訓練 → 天候不良（雪）の為 通報訓練・避難誘導訓練（地震時と火災の予防と対応）

オ) 給食

- ・給食の衛生管理
- ・食中毒について
- ・食物アレルギーへの対応

上記に基づき策定されている「認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園危機管理の為の保育マニュアル」を年度末に見直し、検討して全職員共通理解のもと園内研修等を実施し、乳幼児の生命を守る為に安全・安心に重視した体制を整備して実施している。

6. 乳幼児の健康管理について

- ・集団生活を始めるにあたって、健康状態を把握しておくことが必要である為、事前に家庭調査票に詳しい生育等を記入し提出する。
保育部は母子手帳のコピーの提出。また、保育部、幼稚園（年少児）、入園前の親子面接で再度詳しく生育から現在までの様子を記録する。
- ・在園中は、年間2回の園医による健康診断の実施（内科）・（歯科）。
再検査が必要な折は、専門医に依頼する。
- ・年2回クラス担任が、聴力・視力検査を実施している。

7. 保護者への対応について

保護者との連携を密接にする為、園の運営・教育、保育方針、子どもの成長について、個人別の二杉通信、個人面接(相談)、毎月の園だより等を通して、保護者とのコミュニケーションを深め、信頼関係を築くことに重視している。

8. 学校評価について

認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園として目指す教育目標及び昨年定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基にして、自己評価を実施した。また、歴代会長数名を選出し、主な年間行事の父母からのアンケート及び自己評価、研究保育等を評価していただき、これからの時代を担っていく子ども達の育成の為、ご意見（評価）を頂き、更に充実した質の高い保育を目指しております。

※ 各学校の専任教職員の採用状況について

学校区分	職 名	退職(R 4 年度)	採用(R 5 年度)
短期大学	教 員	3 人	4 人
高等学校	教 員	9 人	8 人
中 学 校	教 員	3 人	4 人
幼 稚 園	教 員	1 人	3 人
学 園	職 員	1 人	3 人
計		1 7 人	2 2 人

II 施設設備等の事業の概要

設置する学校の教育活動の維持・充実向上をはかるために次の施設・設備等を整備した。

○ 建 物

短大西 3 号館・特別教育館ボイラー更新工事、40 周年記念館天井改修工事、東館 LED 照明設備、高校第 2 グラウンド屋外トイレ様式改修工事等

6 件 128,018,000 円

○ 修繕等関係

短大西 1・2 号館外壁改修工事、第 2 体育館南面外壁改修工事ほか校舎等の施設・設備を安全な教育環境で使用するための経常的な保守管理並びに修繕工事を実施した。

99,761,905 円

○ 教育研究用機器備品

短大美術研究室電気炉、中学・高校サーバーシステム更新、中学校 C A I 室パソコン更新、書庫等会議室プロジェクションシステム等

82 点 25,212,333 円

○ 管理用機器備品

高校第 2 好文寮防犯カメラ、高校入試室無線 LAN 拡張工事

8 点 4,770,700 円

○ 図 書

2,931 冊 13,355,125 円

学校法人國學院大學栃木学園 中期計画（2021～2025 年度）

法人運営の指標

本学園の建学の精神すなわち國學院大學の建学の精神に基づく教育活動を設置する学校において顕現発揚し、日本国に貢献できる有為の人材を育成することを目指す。

1. 法人の運営については日本私立大学協会の策定したガバナンスコードに基づき、意思決定の議決機関としての理事会の運営や監事の牽制機能の強化、諮問機関としての評議員会の役割を明確にする。

令和2年4月施行の私立学校法の一部改正により、求められる役割を遵守し、運営基盤を強固なものとする。

2. 少子高齢化の進展など昨今の厳しい経営環境の中で教育研究の質の維持・向上と経営の健全化に向けた取り組みを図る。

3. 国際化の進展や情報通信技術の進歩に伴い求められる学生・生徒の確保や情報収集力の強化を図ると共に、地域との連携を図りながら運営に努めていく。

4. 学生・生徒・園児の確保に向けて

設置する各学校において入学者確保に向けての全教職員の共通認識の醸成と共に同窓会・父母会等との連携を密にするなど積極的な募集活動を実施する。

5. 中・高・短大間の連携の強化

各学校間において教育や人事交流などあらゆる面を強化し、学園の有する教育資源を有効に活用する。

附属高校からの短大への内部進学者の目標数を30名とする。

6. 広報活動の強化

学生・生徒募集のための広報止まらず、あらゆる機会を通して学園のイメージアップにつながるような広報に努める。

7. 危機管理体制の強化

- ・あらゆる自然災害の発生を想定した被害防止策並びに被害発生時の対応などを明確にすると共に訓練の実施並びに周知に努める。
- ・学生・生徒等に係るいじめの防止について教職員が当事者意識を持って迅速に対応する
- ・ハラスメント防止や各方面からの苦情・意見等への適切な対応など教育や人権に係る問題に的確に対応する。
- ・学園の有する個人情報の漏洩や外部からの不正接続に対応するために情報セキュリティ対策の強化と教職員の研修に努める。

8. 情報の公開による透明性の確保

学生、生徒、保護者をはじめとするステークホルダーに信頼されるためには法人の運営や教育研究活動の透明性を確保する点から積極的な情報の公表に努める。

○ 施設・設備計画の進捗状況

(評価 ○：評価有 △：評価不十分 ×：未実施)

目標（施設・設備計画）	進捗・達成状況	
	評価	概要
① 老朽校舎の改築工事の検討（本館） 本中期計画期間内の竣工に向けての計画を策定する。		
② 未耐震改修建物に係る工事実施の検討 二杉寮：狭隘な立地条件の中、大型建設機械の進入路の確保 片柳寮：主要道路に面した立地での改修工事の工法	○ △	二杉寮：旧部室棟の生徒寮への改修工事完了 片柳寮：令和6年度から高校生の女子寮として
③ トイレ改修工事（洋式便座への改修） 特別教育館（令和4年度） 教育センター（令和5年度）	○ △	特別教育館トイレ（様式便座）改修工事完了 教育センター：延期
④ 空調設備更新 短大西1号館（令和4年度） 短大西2号館（令和5年度） 高校教育センター 第1期（令和6年度） 同 第2期（令和7年度）	○ △	短大西1号館更新完了 短大西2号館：延期
⑤ 第2グラウンド全天候走路補修（令和7年度）		
⑥ 中学・高校生を対象とした通学バス運行計画の推進（令和4年度）	×	中止
⑦ 土砂災害防止のための敷地内雨水排水溝改修事業（令和3年度）	○	竣工
⑧ 学校の状況に応じた教育研究備品等の適正な価格で、計画的な購入を行う。		

○ 財務計画の進捗状況

財務計画の在籍者目標数と実績

	2022年度	実績	2023年度	実績	2024年度	2025年度	収容定員
短期大学	430	348	480	300	480	480	500
高等学校	1,360	1,254	1,380	1,164	1,400	1,420	2040
中学校	180	172	180	154	190	190	240
幼稚園	130	118	130	103	130	130	229
計	2,100	1,892	2,170	1,721	2,200	2,220	3,009